

第11回栃木活性化サロン テーマ「デジタル化の推進と地域経済の活性化」

～デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進～

◇令和3年6月9日開催

◇ゲストスピーカー 株式会社えにさむ 事業連携統括 大串 結子 氏

「DX導入事例～実際の事例から見た導入にあたっての考え方とポイント～」

1. DXとは

- 新たなデジタル技術やデータを広く利活用し、新しいビジネス・モデル（高付加価値）を創出すること。これはIT企業を目指すという意味ではなく、データとITを活用し、新しいビジネスモデル、新商品、新サービスを実現するということ。
- DX化によって実現すべき付加価値向上は「付加価値額＝営業利益＋人件費＋減価償却費」。人件費を含めたコストを削減した結果、生産性や付加価値が落ちてしまっただけでは意味がない。
- コロナ禍で当初2年かかるといわれていた会議などのオンライン化をわずか1か月程度で実施。⇒「できるかできないか」ではなく、「やるかやらないか」。⇒ハードルから入らない意思を持つことが重要。
- コロナ禍という危機的状況をきっかけとして、新たな価値が次々に生まれた。⇒ビジネスにおいては次々と画期的なサービスが生まれた一方で、これまで想定していなかった業界の企業と競合しなければいけなくなるなどの事象が発生。⇒全く異なるサービスモデルが生まれると、元々の業界は、はじめなぜ売上が下がっているかわからない。⇒気づいたときには、業界の概念を覆すような、新しいサービスが生まれている。⇒そもそもの業界という「くくりの概念」自体がなくなっている。
- 新型コロナウイルス感染症の流行や台風や地震といった災害等、不確定な要素が多くなっている。⇒VUCA時代（※1）の到来。
- VUCA時代に企業・人に求められることは、不確定な要素を一過性の現象と捉えず、これまでの固定観念が大きく変化している状況であるという認識を持ち、将来にわたっても継続して変化が起こるという前提で、その変化に柔軟に対応していくこと。
- VUCAの時代に生まれた新しいビジネスの具体例⇒飲食業における「Uber Eats」やホテル業界「Airbnb」、シェアオフィス、シェアハウス等。
- 業務改善の手法として従来よりPDCA（※2）が浸透⇒VUCA時代ではOODA（※3）ループが注目されている。

2. DX化事例（支援事例）

- 業務を「OODA ループ」で洗い出し。⇒価値設計（市場解析・情報解析・マーケティング）、事業設計、経営資源解析・設計、人事人材設計、各業務現場運用設計
- 事例紹介
 - ①食品業界（IT導入補助金制度活用）、②製造業界（ものづくり補助金制度活用）、③医療業界（IT導入補助金制度活用）、④リース業界（事業再構築補助金制度活用）、⑤イベント業界（事業再構築補助金制度活用）、⑥広告業界（ものづくり補助金制度活用）

※1…既存の価値観やビジネスモデルなどが通用しない時代

V（Volatility＝不安定性）、U（Uncertainty＝不確実性）、C（Complexity＝複雑性）、A（Ambiguity＝あいまい性）

※2…P（Plan＝計画）、D（Do＝実行）、C（Check＝評価）、A（Action＝改善）

※3…O（Observe＝観察）、O（Orient＝状況理解）、D（Decide＝決定）、A（Act＝動く）